

教えます。



燕市立小池中学校 糸半プロジェクト vol. 4

糸半プロジェクトとは



平成二十七年、燕市の「羽ばたけつばくろ応援事業」の採択を受け、生徒会本部が中心となり、「糸半プロジェクト」を立ち上げました。「糸半プロジェクト」は、お世話になっている地域の方々への恩返しと、中学生にできることを考え行動し、小池中の良さを自分たちの姿で表現するという地域への発信とボランティア精神の向上を目的としたものです。



※糸半プロジェクトの名前には、小池中生が縦糸、地域の方々が横糸となって、お互いの力を出し合って、絆を深めたいという願いが込められています。

The meaning of ITOHAN PROJECT?

□ CONTENTS 一目次一

糸半プロジェクトとは	2 ページ
今年度のテーマと3つの視点	3 ページ
①災害から身を守る	
まちづくり協議会との懇談会	4 ページ
災害場面を想定した道徳	5・6 ページ
地域防災訓練・防災学習	7・8 ページ
防災マップ作成	9 ページ
②新型コロナウイルス感染症から身を守る	10 ページ
③犯罪から身を守る	11 ページ
地域貢献活動紹介	12 ページ

令和2年度 企画活動テーマ

～いざというときに命を守ることができるために 今、私たちができること～

新型コロナウイルス感染症の影響で自分自身や学校の仲間、家族や地域の方々、自分の周りの人の命をしっかりと守ることができるよう行動することが、私たち一人一人に求められています。

そこで、今年度はこれまでの地域貢献活動に加えて、次の3つの視点で活動しました。



① 災害から身を守る



② 新型コロナウイルス感染症 から身を守る



③ 犯罪から身を守る

私たちの地域貢献活動

鉢植えやクリスマスリースの
プレゼント、地域クリーン
作戦、藤の実もぎ作業など



令和2年度 企画活動テーマ

～いざというときに命を守ることができるために 今、私たちができること～



地域の取組や思いを共有

①災害から身を守る

地域との懇談会
五月二十八日(木)

燕第一地区まちづくり協議会の役員の皆さんに、これまでの地域防災訓練での取組や中学生に期待することなどについて伺いました。燕の災害に関する歴史とともに、避難訓練の必要性、避難カードによる人数の把握の大切さなどを詳しく知ることができました。

感想

● 防災訓練を行う意味を深く知ることがで、きました。これからどんな災害が起ころうかは分からぬので、「備える」ということの大切さを感じました。

お話を聞いて、燕市でも災害は起ころうると思いました。実際に災害が起きたときには、避難者カードなどの意味がすぐわかるということが分かりました。これからも近くで災害が起こると想定して過ごしていくことを、燕市でも過去には大きな地震が発生!! 日頃の備えが大切です。

【燕市における災害の歴史】※地震のみ紹介

- ・平安時代 長岡平野西縁断層帯地震 推定M8 長岡丘陵公園付近から角田山沖の日本海までの断層
- ・1670年(寛文10年) 6/22 M6.8 (中越地震と同じ) 新潟市西蒲区から燕市までが震源域
- ・1828年(文政11年) 12/18 M6.9 燕市から与板付近が震源域

燕市でも過去には
大きな地震が発生!!
日頃の備えが大切

防災クロスロード

災害時の様々な場面を想定して
二者択一の選択から、自分はどう
行動するかを考え、みんなで話し
合つて納得解を導き出しました。

災害場面を想定した道徳 3年生



こんな場面を考えました。 その時の立場【あなたは市の職員】

大地震から数時間。避難所には500人が避難している。コンビニのおにぎりが100個と菓子パンが100個、2ℓのペットボトルの水が50本届いた。次はいつ届くか分からない。届いたおにぎりとパン、水を配る？

YES • **NO**

YES or NO カードで意思表示



根拠を付箋に記入

YES は青色、**NO** は赤色

その後、意見交流

振り返り 自分の考えをまとめました

感想

● 災害時にはよりも多くの人が助かつて幸せな気持ちになることはとても難しいことが分かりました。また、いろんな人と協力して考えると災害時でもたくさんのアイデアが出ると分かりました。

● 人それぞれに考え方や思いが違う。災害時はみんなの意見をくみながら行動したい。

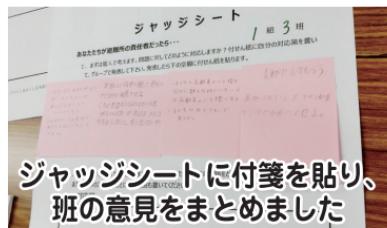
対応のメリットとデメリットを考えつつ、最大限困っている人がいい方向になるようにしたい。

災害場面を想定した道徳 3年生



さすけなぶる

東日本大震災による避難所（ビッグパレットふくしま）で実際に起きた事例にどう対処するか。正解のない問題に、個の命と人権を守ることをルールとして考えました。



こんな事例への対処を考えました。
「新聞屋と呼ばれた人たち」

避難所には、被災者の人数以上に新聞が届けられていました。しかし、毎日その新聞が、全ての希望する人に行き渡らなくて困っていました。調べてみると、何人かの人たちが新聞を数十部持っていました。そのうちに新聞を巡って、けが人が出るなどトラブルが多数発生しました。

【問い合わせ】あなたが避難所の責任者だったら

感想

● 新聞の届け方の例で、何十部も持っていた人は、実は避難所内ではなく、避難所外の新聞が届かない人たちに配っていたと教えてもらった。物事の本質をしきり見ないと、善人を悪人にしてしまう恐れがあるのでは、気をつけなければいけないと思った。